

## 〇〇主義について

**注意：今回は薬と無関係で、私の独断的な話にしましたので無理に読まないで下さい。**

我々ホモサピエンスが20万年前にアフリカで誕生してから全世界を移動し、最終的に南極を除く全地上を支配してから1万5千年が経過したと言われていています。この間様々な国家が誕生しては消滅しました。そして現在、196カ国あるといわれる世界の国家統治形式を大胆に「民主主義国家」と「専制主義国家」の2つに分けると、程度の差はあるにしろ民主主義国家は44.3%、専制主義国家は55.7%という報告があり、世界は専制主義国家の国で半数以上を占めると言われています。現在3つの超大国があるとすると、そのうち民主主義国家は1つだけというのを見ても分かります。

### 1) 民主主義国家の特徴

- ・民主主義国家は、選挙制度や言論の自由などの手段により、国民の様々な意見を受け入れようとするが、一方で国の代表者がそれらをまとめ1つの方向を出すのは結構に大変で難しい。
- ・国の代表者は比較的短期間に替わりやすい傾向があるので、代表者を含めて利権を得ようとする周辺スタッフの腐敗が起こりにくい(専制主義と較べてという意味で短期間であろうと実際には起こる)。
  - ▣それでも特権階級と言われる人々が生まれるのは民主主義が資本主義社会になりやすく、かつ資本主義社会は貧富の格差を拡大する方向に作用するため、富む集団が特権階級となり貧しい集団を支配しがちになり民主主義の一部にほころびを産み出す要因となりうる。
  - ▣したがって資本主義による貧富の格差の拡大は特権階級による専制主義国家に移行しかねないリスクを持っている。
- ・貧富の格差を否定する共産主義は民主主義の1つの結果となりうるが国民の間には浸透しにくい欠点を抱えている。現前たる事実として日本の共産党支持率が4%前後を推移していることでも分かる。
  - ▣何らかの結果でいったん共産主義に移行したとしても代表者に権限が集中しすぎると専制主義国家に移行しかねない(現在のロシアや中華人民共和国はまさにその移行中とみる)。
- ・動物社会から類推しても、人類誕生早期は強き者が弱き者を従わせる専制主義社会だったと考えられる。最初の民主主義の発祥は紀元前500年前頃の古代ギリシャ時代とされるので、ホモサピエンス20万年の歴史の中で1.3%程度の歴史しかないのが民主主義である。それだけ民主主義は生まれにくい主義と言え、かつその維持には人類の継続的な努力が必要でその努力を怠ると専制主義国家に移行しやすい危うさを持っている。

### 2) 専制主義国家の特徴

- ・専制主義国家は国の代表者が自分の考えを武力を含む公的権力を使い強制的に国民に押しつけ従わせるので国をまとめやすい。基本的に民主的な選挙制度は存在せず、言論の自由も制限されるため国民の様々な意見が封じ込められたままになる。その国をまとめやすい手法が世界中をみた時に専制主義国家が多い理由かもしれない。ちなみに専制主義国家と独裁主義国家は同じ意味である。
- ・専制主義国家では国の代表者がいったん権力を持つと長期に渡り支配を続けることが可能な傾向があり代表者から利権を得ようとする周辺スタッフによる利権がらみの長期的な腐敗が起こりやすい。
  - ▣専制主義自体が代表者やそれを取り巻くスタッフが元々特権階級になりやすい傾向があるため、

その特権は強大なものになりやすく、その保持のためあらゆる手段を取りがちになる。

- ・特権階級の存在は特権階級の集団と一般国民の間に貧富の格差を産み出しやすい。
  - ▣特権階級との不公平感、それに対する不満が増大し破裂して特権階級を排除しえたのが革命で、革命により一旦は民主主義が生まれるがその維持には相当の努力が必要で結局一部の力を持った者が支配者となり別の専制主義国家に戻る場合が往々にしてある。
- ・これまでの人類史の中で様々な専制主義国家が生まれ国王や帝王や女王も存在してきたが、先進国の現状をみると多くが民主主義国家に移行して、国王や皇室は国民の象徴的な存在となることで民主主義国家と共存を果たしている。
  - ▣子供や孫に読み聞かせるおとぎ話の王子様やお姫様も専制主義国家の代表者らの子供である。多くの物語はそれら国王の下で国民は平和に暮らしたとするが実際は搾取する側と搾取される側の関係があるので厳しい現実があったことだろう。おとぎ話は国民への懐柔策かもしれない。

### 3) これからの世界は

- ・繰り返しのような話になるが、民主主義国家は国民の権利が守られ「公共の福祉に反しない限り」国民は自由な意志を表現でき実行できる。一定枠内とは言え国民は自由が尊重されるため生活しやすい国と言えるだろう。一方で国の代表者はまとめるのが大変で、お金の分配を考えても全てが公平になるようにするには無理があり、それなりに配慮しても受ける側の国民にとっては公平ではないと主張することができるので国の代表者は緊張のしっぱなしになる。
- ・専制主義国家では国の方針が強制的に国民に押しつけられるため、方針に不満を抱いた国民には罰が下る。場合によっては懲役刑になったり、死刑になったり、人知れず葬られるケースもあるだろう。そのような中でも国の方針に従っていれば生きられると満足する人や渋々従っている国民も多いと思われ、文句を言いつつしなければそれなりに生活ができるので考え次第では人にとっては生きやすい国かもしれない。国の代表者も自分の思うがままにできるのでまとめやすいという利点がある。
- ・国の統治形式を2種類に限定してしまったが、どちらが人間にとって幸せなのだろうか？どちらも国を治める代表者たちが**国民の生活に目を向けてくれている限り**、どの統治形式であっても人間は幸せに感じるのかもしれない。日本は現在、民主主義国家を選択しているので、言論の自由が奪われる専制主義国家なんてありえないという考えが浸透していると思われるが、専制主義国家で暮らしている人達の中には現状に十分に満足している一般庶民がいるだろうという認識で付き合いしていく必要があると思われる。
- ・現在、超大国と言われているロシアのプーチン大統領、中華人民共和国の習国家主席、アメリカ合衆国のトランプ前大統領、小国ながら絶えずミサイル発射を繰り返し国防は軍備とばかりに軍事に金をかけている朝鮮民主主義人民共和国の金総書記などなど皆さんが〇〇帝国の帝王になりたがっているように見えてくる。これまで世界史など過去の出来事としてとらえてきた出来事が、今も起きているととらえるべきなのだろう。近年グローバルな関係を築き上げてきたはずの世界だが、今般のロシアのウクライナ侵攻を機にいつの間にか世界的な経済の不安定が巻き起こっている。超大国の元首の考え方1つでこうも世界が変わってしまうことを当該元首には理解してほしいものだと思う。日本の円安も物価高も侵略的戦争を放棄している日本では、ウクライナ支援の1つの方法として享受するしかないのかもしれないが、いつまでも続けられても日本が疲弊してしまう。国家を仕切る人には地域征服、地球征服、宇宙征服などを夢見ずに、できるだけ格差のない平和な環境を人民に与えて欲しいと思うのだが、これまでの人類史をみても、それが実現されるまでにはホモサピエンスが絶滅するまでの相当の時間がかかりそうな予感がする。

(終わり)